

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	3290400161		
法人名	社会福祉法人神門福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームかんの里(きずなユニット)		
所在地	島根県出雲市神門町13番地5		
自己評価作成日	令和4年3月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和4年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の「出来る事」「やりたい事」「分かる事」を大切し日々のケアを行い信頼関係の構築に努めている。
現在はコロナウイルス感染拡大のため家族や地域との交流に制限があるが工夫を凝らし関わりを保てるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームかんの里は地域密着介護老人福祉施設と小規模多機能型居宅介護事業所が併設されています。
令和2年4月に1ユニット「きずなユニット」が増床されました。
管理者、職員は基本理念「尊厳」「家庭的な雰囲気」「安心」「絆」の基、職員は認知症の利用者がその人らしく居こご地の良い場所であるように常に心掛け支援されています。
職員は誇りやプライバシーを損ねない丁寧な言葉掛けで対応され利用者は安心されています。
リビングにはソファが置かれゆっくりと過ごせるような空間作りをされ落ち着いた雰囲気です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念を念頭に置き支援を行っている。また理念を基に月の目標を定め業務に取り組んでいる。	基本理念として「尊厳」「家庭的な雰囲気」「自立支援」「絆」を掲げ、理念に沿ったケアを目指しておられます。理念に沿った月目標も作成され振り返りを行いながら実践されています。基本理念・目標は事業所内に掲示し意識付けが行なわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス拡大の為地域との交流が出来ていない。 地域の保育園とは行事の際ビデオレターや手作りの作品を通して交流を図っている。	コロナ対策の為、地域との交流も難しい状況ですが、系列の保育園とは行事の時のビデオレターや手作り作品を通して交流が図れています。また、地域の行事に作品展示をされ交流の継続が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染拡大の為、地域との交流もなくB型サロンも開催出来なかった。 随時入居相談などは電話相談は受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催して意見交換をしている。 現在コロナウイルス感染拡大の為、書面による報告、意見募集を行った。	コロナ流行じにはコロナ対策の為、書面報告(利用者状況、活動状況、会議、研修、避難訓練、意見募集)とし、運営推進会議のメンバーに送付されました。コロナが終息した際には、リアル開催される予定です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に介護相談員の方が訪問を受け、終了後に意見交換を行っている。 毎月入退去の報告書を出雲市に提供し待機者数の管理に協力している。	市担当者とコロナ対策や利用者状況、サービスの取り組み等電話で連携されています。3ヶ月に1回介護相談員の訪問を受け、利用者の思い等を聞いて頂き、気づき等報告を受けサービス向上につなげられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修を行い理解を深めている。 またユニット会議などで身体拘束特にスピーチロックに関する事例が無い確認、意見交換を行っている。 センターを使用する際も家族に相談、報告を行い使用している。	ユニット会議で定期的に身体拘束廃止委員会を開催されています。また、身体拘束をしないケア、人権についても話し話し会われ職員にも周知されています。センサーマット使用の場合には、手順に則り同意や記録もしっかりと実施されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待防止について理解を深めている。また不適切なケアや声掛けをしていないか職員同士確認出来る様に月の目標を設定している。 管理者、リーダーから個別に注意する事もある。また職員同士でも悩みや意見を言えるように努めている。	なごみユニットと合同で研修を行われ虐待の防止について理解を深められています。虐待の防止の徹底について不適切なケアや声掛けを行っていないか職員同士確認できるよう月の目標に掲げ虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めておられます。管理者、リーダーから個別に注意される事もあります。職員同士でも「虐待の防止の徹底」について悩みや意見が言えるよう努めておられます。	虐待防止廃止委員会については、身体拘束廃止委員会と同時開催で結構ですが、議事録については各々作成される事を望みます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会が無い為職員の理解は乏しく活用が難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入局時に重要事項説明書の説明を行い同意を頂き契約者を作成している。 入居後に起こりえる事に関しても事前に説明し同意・納得を頂いている。 また随時質問等に対して丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で利用者の意見、要望を聞きそのことが実現出来るように努めている。また表現できない方には日々の反応を観察し不快なケアにならないように心掛けています。 家族来訪時に意見、要望を聞いている。	コロナの状況を確認しつつ、現在直接の面会は中止されていますが、希望者には窓越しに面会が行なわれています。利用者の方とは日頃よりコミュニケーションを図るようにされています。家族には面会時直接伺ったり、ケアプラン更新や変更時に意見、要望を伺われます。家族にはかんだの里通信に担当職員がコメントを(行事、生活様子等)入れ郵送し、日頃の様子をお伝えされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行い管理者、施設長も参加して意見交換をしている。また随時個別でも意見、提案を聞き入れ業務や他部署との連携を円滑に行うようにしている。	施設長、管理者も参加してのユニット会議が毎月開催され、月目標の設定、振り返りやケアの在り方について意見交換が行われています。日常的に個別で意見提案も聞き業務に反映させておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や負担を考慮した勤務を組み業務をしやすい環境作りに努め、日々の関わりから実績や努力を認めている。 また今年度は法人内で給料改定もありやりがいや向上心に繋げている。	職員の希望やワークライフバランスを考慮したシフトが組まれています。今年度は給料改定による昇給は行なわれ、職員のやりがいや向上心に繋がっています。職員の実績や努力を評価されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、内部、外部と研修が難しいが出席できる研修には参加している。 また今後はオンライン研修も考えている。	コロナ対策の為、外部講師を招いての内部研修や外部研修への参加が厳しい状況ですが、職員一人ひとりに合ったWEB等の外部研修参加や内部での勉強会が行なわれています。今後はオンデマンドの内部研修導入も検討されています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染拡大の為、法人内での交流は控えており外部の同業者との交流はしていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問して本人の状況や意見、要望を聞き生活状況の把握して初期計画書を作成している。 入居後は本人の思いなどを傾聴し信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みより困っている事や不安な思いを傾聴し思いを受け止めて要望に答えられる様に努めている。 またコロナ禍のため面会制限があるが随時電話でも相談や意見を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み後すぐの入居は難し事があり家族には必要な情報を提供し待機して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見極め過度なケアにならないように努めている。 当番制で家事をして頂いたり、居室の掃除など無理のない範囲で活動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染拡大の為面会が制限されているが電話、手紙で家族との関係を切り離さないようにしている。 また職員からもこまめに連絡をし協力関係を気づき安心に繋げるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染拡大の為、馴染みの友人との交流は出来ていない。 馴染みの場所にドライブに行っている。	コロナ禍と言う事もあり、外出が難しい状況です。 車から下りる事難しいですが、ドライブで自宅付近や墓参りに希望により実施され喜ばれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格など考慮し席替えを行って会話が弾む様にしている。共同作業で食堂に飾る壁画を作り連帯感を持って頂いている。 また自ら話す事が出来ない方でも一緒に活動の輪に入り孤立感が出ない様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナウイルス感染拡大のため退去後は関わりがなくなった。 入院中は紙面で情報提供、電話でのやり取りに限られていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で本人の思いや発言、表情などに気を付け記録を残し職員欄でも共有して本人本位な暮らしが出来る様に努めている。 また定期的にケアカンファレンスを行いケアプランを見直し家族とも情報を共有している。	一人ひとりの気持ちを聞く、変化があればそのときの言葉などを記録され思いや意向を把握されています。日常の関わりから思いや表情などに気をつけ記録に残し職員間で共有され本人本位の暮らし方に努められます。困難な方には家族から入所前の生活暦等を伺われ意向を検討されています。定期的にカンファレンスを開催され見直しを行いケアプランに反映されます。	思い・意向・希望より利用者の生きがいに繋げていかれると良いと思います
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族から生活歴や趣味など聞き取りケアに反映しているまた担当ケアマネジャー、利用していたサービス事業所などからも情報を聞き取り状況把握に努めている。 入居後も日常の会話から暮らしや思いをくみ取る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録に残し、業務前には申し送りをして現状の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ってケアが出来ているか毎日確認をしている。3ヶ月毎にケアマネジャー、担当職員を中心に職員間でケアプランの見直しをして意見交換している。また本人、家族からも話を聞きケアプランに反映している。	ケアプランに沿ってケアを実施できているか毎日確認されています。3ヶ月に1回計画作成、担当職員で評価・見直しを行いケアプランの継続・変更されます。ケアプランの見直し時期には家族とも話し合いプランに活かしておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や些細な事でも記録に残し職員間で情報を共有しているのでカンファレンスの時に意見交換がしやすくなっている。 記録はタブレットを使用しているのでバイタルや水分量、排泄関係は一目で分かる様になっている。	タブレットで申し送りや日々の記録を行われています。タブレット記録により必要な記録や情報が早く分かり職員の共有が速やかに行えています。タブレット使用を活かしケアの実践、共有内容からケアプランの評価・見直しがスムーズに行うことができます。以前の申し送りノートも活用されています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルス感染拡大のため行動に制限があるが出来る範囲で本人、家族の要望の対応に努めた。家に帰りたいたい思いには馴染みの場所やご自宅周辺にドライブや散歩などに行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大の為馴染みの友人との交流や地域の行事も中止になり加えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を確認し在宅時の医療が継続出来る様にしている。また事業所の提携医を希望される時は4週間毎に訪問診療に来て頂き連携を取っている。	利用者・家族等が希望するかかりつけ医を継続して頂かれています。かかりつけ医が受診の場合は、ホームからの情報提供書を持参頂き家族による同行受診を基本とされており、受診後は家族より報告を受けておられます。協力医等往診の場合には結果等を家族にお知らせされます。協力医は夜間、急変時に対応頂けます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活での様子を介護職と情報を共有している。また健康面で変化があれば随時、報告、相談をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報交換をし早期退院に努めている。また情報を速やかに提供できるように月に一回情報提供書を見直している。 地域医療連携部門との連携も行っている。	利用者が入院される時は安心して治療が行えるようホームでの様子を情報提供が行なわれます。退院時にはカンファレンスや電話連絡で情報提供して頂き、退院後のケアに繋がられています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は重度化や終末期の方はおられないが今後の為家族と話し合いあいを検討している。 健康面に何かあれば随時家族に報告、相談している。	契約時に看取り指針を家族に説明され同意を得ておられます。体制等が整えば看取り対応されず。終末期が近づいてきた場合には、主治医、ホーム、家族で話し合い、家族の意向を考慮した終末期の対応が行なわれます。	看取り研修や勉強会を行われる事も良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナウイルス感染拡大のため救急法の研修は出来ていない。 ひやり・はっと、事故報告を職員間で共有し事故予防に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行うい災害時の対応を学んでいる。また連絡網を作成し災害時の協力体制をとるようにしている。	年2回避難訓練避難確保計画に基づく避難訓練を小規模多機能事業所と合同で実施しておられ、連絡網の確認も行われました。また、水害避難確保計画が策定されていますが、避難場所の再検討が必要な状況です。備蓄品も準備されています。	事業継続計画(BCP)を策定され自然災害等でも業務が継続できる体制作りに取り組まれる事に望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをくだしすぎて丁寧な言葉遣いが崩れる事がある。利用者の尊厳保持の為に職員間で言葉遣いの注意が出来るよう月の目標を掲げている。	「尊厳」を理念に掲げ、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した気を心掛けておられます。日頃より声掛けにも気を付けておられ、職員間でも話し合い、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けを心掛けておられます。特にトイレ誘導時や更衣時等の声掛けに配慮されています。入浴介助は同姓介助の方もおられプライバシーの確保に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かする時には必ず「何をしたいのか」「どうしたいのか」伺い利用者に決定権があるように努めている。また言葉でうまく伝えられない方には複数の提案をし返答しやすいようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度スケジュールは決まっているがそれ以外の時間では個々の日課や好きな場所で過ごして頂いている。レクリエーションや共同で作業する時も個々の体調や気分など考慮して活動をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご自分で選んできて頂いている。ご自分で選択出来ない方には季節やその方の好み考慮して選んでいる。 日頃から身だしなみには注意をはらいみだれていたら直している 定期的散髪も依頼し清潔感を保っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付けを一緒にいき食事への意欲を高めている。 野菜を栽培しその野菜を収穫し調理をして食べる楽しみを作っている。	利用者は食事を楽しみにされており、見た目でも楽しめるよう食材にも工夫をされています。好みを伺っているが嫌いなメニューのときは別メニューに変更し提供されています。食事の準備や片付け等が可能な利用者は職員と一緒に行われています。介助が必要な方は本人のペースで食事ができるよう支援を行われています。誕生会や行事食、おやつ作りを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食事形態は個々に合わせて提供している。食事量、水分量は記録に残し日々の経過を観察している。 水分が取れるように食事や喫茶以外の空き時間にも飲み物を勧めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前は必ず嗽を行い口腔内の清潔を保つようにしている。食後は状態に合わせて口腔ケアを実施している。義歯の方は夕食後に入れ歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。	毎食後、利用者全員口腔ケアとして、歯磨き、状態観察を行われています。利用者の状況によっては仕上げ磨き等に支援が行われています。の清潔保持を行われています。義歯は毎夜間洗浄液に浸け消毒をし衛生に気を付けておられます。不具合があれば家族に連絡されます。歯科受診は家族が行われます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄の記録を残して個々の排泄パターンの把握し適切な声掛け、誘導をしている。オムツやパットを使用している方には本人の状態にあう物を使用している。	できる限りトイレで排泄が継続できるよう利用者毎の排泄パターンから声掛け、トイレ誘導を行われ自立に向けた支援が行われています。衣類への汚染がないよう居室担当を中心にパッド等の種類の検討が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄の記録を残して排便の感覚を観察している。起床時は牛乳を飲んで頂いたり、水分量の把握、適度な運動を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中、夜間で入浴を行い出来るだけ希望の時間に入れるようにしている。利用者の羞恥心を考慮して同性介助を心掛けている。	入浴日は設定されていますが、出来る限り利用者の希望する時間に入浴できるよう努めておられます。週2回～3回、日中、夜間で入浴が行われています。脱衣所の温度管理、手すりやシャワーチェアなど福祉用具の活用により安心、安全に入浴支援が行われています。ゆず湯や菖蒲湯も行われ入浴の楽しみとなっています。普通浴槽の為、二人介助ができない方は冬季もシャワー浴で対応されます。同性介助にも対応しておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人給休息する時間が違うのでその方が気持ちよく休めるように個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解や確認が出来る様に薬情報は直ぐに確認出来るようにしている。後薬などの間違えがないように二重確認、声を出して名前、日付けの確認をしている。	職員が確認しやすい様にタブレット記録内に薬の処方注意事項、目的、副作用、用法や用量等を掲載し、職員がいつでも確認出来るようにしておられます。薬の変更や用量が変わった場合には、利用者の状態観察に努めておられます。変化があれば記録を行ない、かかりつけ医に報告し対応しておられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣や得手不得手があるのでその方にあった作業をして頂いている。生活歴などを反映し昔仕事にしていた事を作業や活動に取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大のため本人の希望にそって外出支援や外部との交流は出来ていない。 ドライブやホーム敷地内の散歩は行っている。	コロナ対策の為、日常的な外出も難しい状況ですが、利用者の希望に沿って自宅近くへのドライブ等が行なわれています。天気の良い日にはホーム周辺の散歩を楽しまれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設側で管理している。 コロナウイルス感染拡大のため外出しご自分で買い物をする機会がないのでお金を遣う事がない。必要な物は家族か職員が預り金から購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状、日常的に手紙のやり取りを行っている。電話も本人希望時や家族と電話をする曜日を決めて話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では温度、湿度、明るさが過度な状態にならないように努めている。 季節感のある壁画やオーナメントを飾ったり生花を飾り四季を感じれるようにしている。	リビングのテーブル周りにソファーや観葉植物等を置きゆっくりとくつろげるような空間作りが行なわれています。季節感のある壁画やオーナメント等が飾ってあります。エアコンの温度、湿度の調整や換気にも気を付け居心地よく過ごせるよう気を付けておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを設置しゆっくり話が出来空間や日当たりの良い窓の近くに椅子を設置して外を眺めれる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談しながら使い慣れた物を設置したり家族の写真を貼っている。またご自分で制作したオーナメントを飾ってる。	自宅に近い生活環境となる様、自宅で使い慣れた物や家族の写真やメッセージカードを飾られています。本人が心地よく過ごせるよう居室担当と一緒に整理整頓が行なわれています。ベッドの位置も利用者の動線に合せ位置を変更されます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで要所には手すりを設置し安全に歩行で来るようにしている。 また大きなカレンダーや時計を設置し、自分で気付いて行動出来る様に工夫している。		